

南あわじ市 平成 19 年度 事務事業評価シート  新規  継続  
( 事業 委託 補助用 )

## I 基本事項

整理番号 792

事業名	産卵用蛸壺設置事業補助金		予算科目	会計	一般会計・1
担当部課名	産業振興部	水産振興課		款	農林水産業費・6款
電話	0799 - 37 - 3013			項	水産業費・3項
事業分類	<input type="checkbox"/> 義務的(法定)事務		法的根拠 (法令、条例、要綱等)	目	水産業振興費・2目
	<input checked="" type="checkbox"/> 任意的(自治)事務				
南あわじ市総合計画 施策体系	まちづくりの柱	職 食 づくり 夢あふれ 働く場を生み出すまちづくり			
	まちづくりの目標	ふやさんか 食づくりの担い手【農漁業】			
	施策目標	食づくりの源である豊穰の大地と海を守り、農業や漁業に携わる市民(若者、女性、元気な高齢者層など)を育てる			
該当する事業について「 」を選択		施策的事业	業務委託	負担金補助	

## II Plan (計画、事業内容、事業背景)

事業概要	目的	対象(誰を・どのような状況の人に) 南あわじ市内のたこつぼ漁業関係者		対象人数(人) 163	
	目的	意 図(どのような状態になってもらいたいのか、事業を実施する「本来の目的」を記入) 産卵用蛸壺を設置することで稚ダコの繁殖を図り、漁業経営の安定を図る。			
	実施内容	(何をどのような手段・内容・手順により目的を達成させるのか) 産卵用蛸壺の設置にかかる費用の3分の2を市が補助する。 19年度実績； 湊漁協 600個設置(補助額252,000円) 丸山漁協 1,000個設置(補助額420,000円) 阿那賀漁協 450個設置(補助額189,000円) 福良漁協 1,000個設置(補助額420,000円) 南淡漁協 1,000個設置(補助額420,000円)			
	背景	(どのような現状・課題・要望によって事業が実施されるに至ったか、他の自治体の動向など) タコをとる漁労は、年配の方においても比較的しやすく、また、タコの値段の変動も少ないため、タコ類の漁獲量の減少をどうにかして食い止めを図る目的として、この産卵用蛸壺設置事業が考案された。 南あわじ市独自の事業であるが、漁獲量の減少、魚価の安価により、漁業経営は悪化の一途をたどっているこの現状を、すこしでも市行政として援助することが出来ないかと考えたとき、本事業のような事業により、漁獲量の増大を目指していくことが大事である。			
	事業実施主体	<input type="checkbox"/> 市直営 <input checked="" type="checkbox"/> 民間・その他 ( 漁協 )			
	事業期間	<input type="checkbox"/> 平成 年度 ~ 平成 年度 <input checked="" type="checkbox"/> 設定なし			
合併協議事務調整内容	(合併前における事業実施団体と合併時における事務調整経緯) <input type="checkbox"/> 旧緑町 <input type="checkbox"/> 旧西淡町 <input type="checkbox"/> 旧三原町 <input type="checkbox"/> 旧南淡町 <input type="checkbox"/> 旧広域事務組合 <input checked="" type="checkbox"/> 新市から				

## Ⅲ Do (事業活動・成果、投入資源・コスト)

「実施内容」により得られる活動結果指標 (アウトプット)	指標名	蛸壺投入状況			指標単位 箇所
	指標説明 (指標算出方法等)	南あわじ市内6漁協の蛸壺設置事業の実施状況			
		平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度
	目標値	6	6	6	4
	実績値	3	4	5	
	達成度 (%)	50.0	66.7	83.3	-
目標値設定の考え方	漁協がこの事業に参加するかどうか				
アウトプットにより達成される「目的」に対する事業の成果指標 (アウトカム)	指標名	蛸壺投入量			指標単位 個
	指標説明 (指標算出方法等)	蛸壺設置事業に参加した漁協の実施投入数量			
		平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度
	目標値	4,200	4,400	4,400	4,000
	実績値	3,600	4,200	4,050	
	達成度 (%)	85.7	95.5	92.0	-
目標値設定の考え方	本事業を始めるに当たって、投入目標数量に定めた投入個数				
資源配分 (インプット)		平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度
	直接事業費 (千円)	1,562	1,820	1,701	1,701
	産卵用蛸壺設置に対する補助額	1,562	1,820	1,701	1,701
	財源 (千円)				
	国				
	県				
	起債				
	その他				
	一般財源[A]	1,562	1,820	1,701	1,701
	人件費(正規職員)[B] (千円)	491	538	602	0
	平均人件費(1日当り)	30.7	29.9	30.1	30.1
	事業量1(事業に要した日数)	8	9	10	
事業量2(事業に要した人数)	2	2	2		
年間経費([A]+[B])	2,053	2,358	2,303	1,701	
「目的」対象人数1人当り経費 (千円)	12.6	14.5	14.1	10.4	
受益者人数(163)1人当り経費(千円)	12.6	14.5	14.1	10.4	
経費に関する補足説明					

## IV Check (事業の自己評価・一次評価)

達成度	活動結果指標目標達成度	単位	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	
		%	50.0	66.7	83.3	-	
(アウトプットの達成度分析、問題点・課題などを記入。) 南あわじ市内6漁協において、本事業を行ったのは18年度では6漁協のうち4漁協であった。本年度は6漁協のうち、5漁協が本事業に参加している。							自己評価 (5点評価)
							3
有効性	成果指標目標達成度	単位	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	
		%	85.7	95.5	92.0	-	
	成果向上率	%	-	16.7	3.6	-	
(事業実施による目的に対する有効性分析、問題点・課題などを記入。) 産卵用蛸壺の設置を行っていくことで、タコの産卵、及び定着性が促進されるため、継続的な事業を行っていくことが有効である。							自己評価 (5点評価)
							3
効率性	活動実績1単位当り経費	単位	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	
		千円	684.4	589.6	460.6	-	
	効率性増減率	%	-	13.9	21.9	-	
(効率性・コストの分析、問題点・課題などを記入。) 1漁協あたりの当事業経費が表示されているが、参加漁協が昨年度より1漁協増えたので、効率性は向上したと考えられる。							自己評価 (5点評価)
							4
必要性	公共性の高低	<input checked="" type="checkbox"/> 高	<input type="checkbox"/> 中	<input type="checkbox"/> 低			
	(公共性、市民ニーズ、緊急性などを分析、問題点・課題などを記入。) 稚ダコの繁殖を図り、タコの漁獲量をあげることを目標としている本事業は、漁業経営の安定のためにはどうしても必要である。						
							4
総合評価	自己評価をふまえた現状分析		<div style="border: 1px solid black; padding: 10px;"> <p><b>評価グラフ</b></p> <p>達成度</p> <p>5 4 3 2 1 0</p> <p>必要性 ← 0 → 有効性</p> <p>効率性</p> </div>				
	当事業の該当団体である漁協の全てが本事業に参加を表明することを最終目標としているが、本事業の結果、タコの漁獲量の増大により、タコ採取漁業者の漁業所得の増大が見込まれるので、継続的な存続が必要と思われる。						

## V Action&amp;Plan (改善の内容及び次年度以降の計画)

	平成20年度にできる改善・改革	平成21年度以降にできる中期的な改善・改革
今後の方向性とその理由	<input checked="" type="checkbox"/> 現状維持 <input type="checkbox"/> 休止・廃止 <input type="checkbox"/> 事業統廃合 <input type="checkbox"/> 予算充実 <input type="checkbox"/> 予算削減 <input type="checkbox"/> 手法見直し	<input checked="" type="checkbox"/> 現状維持 <input type="checkbox"/> 休止・廃止 <input type="checkbox"/> 事業統廃合 <input type="checkbox"/> 予算充実 <input type="checkbox"/> 予算削減 <input type="checkbox"/> 手法見直し
	タコの継続的な繁殖及び、タコの漁獲量の増加のためには、継続的な存続が必要と思われる。	同左
(現状維持以外の改善方法)		
改善によって期待される効果 (現状維持以外の場合)	効果(アウトカム)面	効果(アウトカム)面
	コスト面	コスト面
(現状維持の場合も記入)	<b>仮に</b> 事業を中止、統廃合した場合に予測される影響(プラス面、マイナス面) 平成17年度より3ヵ年本事業を行ってきた、稚ダコの増殖が見られ始めたこの時に、本事業を中止してしまえば、タコの漁獲量の維持・増大を図ることは難しい。タコの漁獲量の維持・増大を図るためには継続的なたこつぼの設置が必要であると思われる。	